

若生ひろとし

活動報告(市政報告)
2022年10月発行
富谷市長



これからも、「住みたくなるまち日本一」をめざし続けます。

自然と都市部の調和が図れるまちづくり、「田園都市構想」を推進。

発行 / 若生ひろとし後援会
〒981-3341 富谷市成田九丁目1番19 TEL.022-725-8240 FAX.022-725-8242
代表 / 中鉢義徳 [Facebook] <https://www.facebook.com/sinseitomiya>

とみやの「住みやすさ」ランキングが、さらに上がっています！

暮らしアンケート・各自治体評価など各種ランキング

★住みこちランキング2022 (2022.7.27 発表、大東建託株式会社)

4年連続 宮城県 第1位 3年連続 東北 第1位

★2022年住み続けたい自治体ランキング (2022.5.17 発表、株式会社リクルート)

住み続けたい自治体 宮城県 第1位

★住みよさランキング2022 (2022.6.13 発表、東洋経済新報社)

3年連続 宮城県 第1位 北海道・東北地区 第4位

★住み続けたい街ランキング2021 (2021.10.20 発表、大東建託株式会社)

「住み続けたい街」「街に誇りがある」東北 第1位

富谷市は「男女が平等に社会に参画できる環境づくり」を推進しています。

審議会など委員の女性割合 53.1% 全国 第1位
(2021.4.1 内閣府まとめ)

若生ひろとし後援会 新事務所

〒981-3341
富谷市成田九丁目1番19
TEL.022-725-8240
FAX.022-725-8242



宮城県市長会副会長 宮城県市町村職員共済組合理事長 宮城県自治振興センター管理者

1964年(昭和39年)2月生まれ・宮城県富谷市今泉出身
家族：妻、母、娘(大学生・上京中)、犬、猫と共に在住。
家業である農業をしながら仲間たちと一緒に「ブルーベリー」を富谷町の特産品にし、31歳で起業。

若生 裕俊(ひろとし)profile

1996年	宮城県青年会議所会長、青少年のための宮城県民会議副会長	2012年	富谷電力(株)設立 代表取締役社長
1999年	指定確認検査機関(株)東北建築センター設立 代表取締役社長	2015年	富谷町長就任
2007年	アジア初のスローフードインターナショナル国際理事(世界で7人の執行役員)	2016年	10月10日、市制施行により初代 富谷市長就任
2011年	「復興屋台村気仙沼横丁」をオープン。経済産業大臣より表彰		現在(2期目)に至る

内部討議資料(2022.10.1)

村井嘉浩宮城県知事から 応援メッセージを頂きました。



若生さんは、私が青年部長時代に幹事長として私を支え、私の後任として青年部長を引き継いでくれた30年来の盟友です。

若生市長は市制施行を先導し、初代市長として常に先進的な取組を実施し、その結果、富谷市は民間調査機関による自治体評価ランキング全てにおいて、令和元年度から連続して、県内一位・東北一位の高い評価を受けており、これは、若生市長の卓越したリーダーシップによる賜物です。

また、富谷市にとって長年の念願であった「総合病院」の誘致についても、いち早く名乗りを上げ、富谷市への立地を公約に掲げた私と共に取組を進めており、これは、まさに若生市長でなければ実現できない一大プロジェクトと言えます。

富谷市民の皆さん、どうか引き続き「若生ひろとし」さんへのご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

宮城県知事 村井 嘉浩

これからも、「住みたくなるまち日本一」をめざして。皆さまの声を聞き、暮らしやすさと安全を第一に考え、市政を運営してまいります。



若生ひろとし、未来への提言

若生ひろとしの基本方針「富谷市総合計画」を着実に遂行します。

- | | | |
|---|---|--|
| <p>富谷市総合計画「4つの基本方針」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①もっと、暮らしを自慢できるまちに ②もっと、教育と子育て環境を誇れるまちに ③もっと、元気と温かい心で支えるまちに ④もっと、市民の思いを協働でつくるまちに | + | <p>時代を見据えた新たな「3つの視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ウィズコロナ・アフターコロナにおける新しい生活様式 ②子どもにやさしいまちづくりの推進 ③SDGs(持続可能な開発目標)の推進 |
|---|---|--|

詳しくは富谷市公式ホームページもご覧ください。
<https://www.tomiya-city.miyagi.jp/shisei/keikaku/sougou/>



市民の皆さまの「暮らしやすさ」をさらに高める、9つの重点方針。

自然と都市部の調和が図れるまちづくり＝「田園都市構想」実現に向けて。

- 暮らし 医療 安全安心

総合病院誘致

(東北労災病院と県立精神医療センター)

県内でいち早く誘致に名乗りを上げ、東北労災病院及び県立精神医療センター合築に係る整備候補地として、明石台地内の用地を県に提案しました。今後も誘致実現に向けて全力で取り組んでまいります。
- 暮らし 経済 地域 企業誘致 雇用促進

基幹公共交通システムの整備促進

「富谷市都市・地域総合交通戦略」を策定し、今年度は泉中央駅から明石台地区までの地下鉄整備の調査検討を行なっています。今後も基幹公共交通システムの整備に向けて検討を深めてまいります。
- 暮らし 経済 地域 企業誘致 雇用促進

富谷ジャンクションのフル化(仙台北部道路)

都市計画変更の申出を県に提出、令和4年8月には国土交通大臣を訪問しフルジャンクション化早期実現など要望書を提出しております。今後も積極的に実現へのステップを進めてまいります。
- 暮らし 地域 教育 子育て

市民図書館等複合施設整備

市民図書館、スイーツステーション、児童屋内遊戯施設の3施設それぞれの機能を効率的に集約した複合施設を整備し、相乗効果を高めます。
- 暮らし 教育 子育て

学校給食費完全無償化

「子どもにやさしいまちづくり」を推進し、子育て世帯の経済負担を軽減する「学校給食費の完全無償化」について、令和5年度からの実現を目指します。
- 暮らし 子育て 安全安心 医療

子ども医療費初診料無料化

就任して以来、対象年齢を18歳まで拡大し、令和2年より所得制限の撤廃を行ってまいりました。そして令和5年度からは初診時等の一部自己負担も廃止します。
- 暮らし 介護福祉 地域

重度障害者等ガソリン利用券助成

重度の障害のある方、そしてご家族の負担を軽減するために、ご本人またはご家族が所有する自家用車(二輪を除く)の燃料費を助成するガソリン利用券交付の早期実現をめざします。
- 暮らし 経済 地域

国保税の引き下げ

平成28年度に国保税の引き下げを行いました。さらに令和5年度から、もう一段階国保税の引き下げを検討しています。また、均等割5割軽減の対象年齢を18歳まで拡大、更なる負担軽減を図ります。
- 暮らし 経済 地域 安全安心 医療

アフターコロナの経済施策、安全対策

コロナ過での市民の安全安心のための施策、及び、影響を受けた地域経済再生に向けた施策を実施します。また、アフターコロナを見据えた経済活性化施策もしっかりと整えてまいります。

常日頃より、市民の皆様には多大なご理解と協力を賜り、コロナ禍でありながら本当に多くの施策を実現することができました。改めまして、皆様のご支援に深く感謝申し上げます。この数年で行った、あるいはこれから行う予定の施策を一部、ご紹介いたします。これからも市役所職員と共に安全・安心に十分配慮しつつ、市民の皆様の住みやすさを、さらに高める市政を執行してまいります。

コロナ感染症に関わる経済対策

富谷市では新型コロナウイルス感染症への経済対策、感染対策など 100 以上の事業を行ってまいりました。全ての事業に対してできる限りのスピード感と安定感で実施できたと考えております。またワクチン接種に関しても、令和3年1月6日に「ワクチン接種特別対策チーム」を設置後、黒川3町村及び黒川医師会と連携を図りながら、確実かつ迅速に接種体制の構築を進めました。

●特別定額給付金：1人につき10万円の特別定額給付金

富谷市では、特別給付金対策チームを設置後、県内最速で申請書を全世帯に送付し、しっかりと市民の皆様にお届けすることができました。

- 富谷市ひとり親家庭等緊急支援事業
- 子育て世帯への臨時特別給付金
- 新生児特別定額給付金給付事業
- 敬老祝い商品券事業
- とみやブルーベリーふるさと便
- とみや牛たんカレーふるさと便
- テイクアウト等利用促進事業
- 割増商品券事業
- キャッシュレス促進事業
- 地域振興商品券交付事業
- 店舗等経営支援金交付事業
- 売上減少事業者支援事業
- 市内医療機関等従事者感謝・応援事業 などなど



↑好評だった富谷市独自施策「テイクアウト等利用促進事業：食べて応援クーポン」(写真は第4回)。コロナによる影響は続いており、まだまだ支援が必要な状況だと考えています。

起業・創業支援、産業振興策

●富谷塾(第5期開催中)

長年の経営者としての経験を生かし、開塾当初から市長が塾長を務めています。現在の第5期生は9月末時点で約140名。これまで延べ800名以上が塾生(内6割以上が女性)として学び、40名以上が起業しております。全国からの行政視察も増加するなど、各方面からも注目される取り組みになっています。



▲富谷塾・第1期生との記念撮影

●富谷まちづくり産業交流プラザ TOMI+ (とみぷら)

稼働から4年、「富谷塾」をはじめ、各事業と連動するサテライトオフィス誘致、起業・創業支援としての役割を活性化しています。

●企業誘致、雇用促進 (令和4年8月現在)

造成工事を進めている高屋敷西地区に、株式会社 NTK セラテックに続いて日本ファインセラミックス株式会社が新工場立地を決定。

福祉・健康・保健関連施策

●デマンド型交通運航開始 (令和2年10月)

市民バスの代替手段となる新たな交通手段として、北部区域と東部区域を対象に「デマンド(予約乗合)型交通」の運行を実施。高齢の方にも好評をいただいております。



出発の様子▶

●外出支援乗車証「とみぱす」 (平成28年度～)

高齢者と障がいの皆さまを対象に、社会参加の促進と安全・安心な移動支援のために、IC乗車証イクスカを活用した「とみぱす」を交付しています。

●福祉タクシー利用券助成事業の対象者拡大(令和3年度)

重度の障害をお持ちの方、また要介護3以上の認定者など、公共交通機関の利用が困難な方を対象にタクシー利用料金の一部を助成するチケットを交付しています。

子育て支援・教育に関する施策

●子育て支援センター「とみここ」

妊娠期から子育て期に至るまで切れ目のない支援を行う「子育て支援センターとみここ」も令和4年4月で、オープン5周年を迎えました。「とみここ」には保健師や臨床心理士等の有資格の専門スタッフが常勤、母子健康手帳の交付や乳幼児健康診断、予防接種、育児に関する相談や講座の実施など、子育て家族のサポートを広範囲に行っております。



▲「とみここ」ウェルカムパーティ(令和3年9月)

●乳児見守りおむつ等お届け便事業 (令和4年12月より実施予定)

長引くコロナ禍において、保護者の感染リスクの回避や経済的な負担の軽減などを目的に、今年度生まれたお子さんが1歳になるまでの間、自宅に紙おむつ等をお届けする事業を開始します。

●保育所における待機児童ゼロ 3年連続達成

富谷市では保育所の整備や保育士の確保などを継続して実施してきました。各保育園のご協力をいただき、令和4年4月1日現在の保育所待機児童ゼロを3年連続で達成することができました。

●市内全ての小学校敷地内に 放課後児童クラブ棟を設置

就任当初からの公約であり、保護者の皆さまの要望でもありました「放課後児童クラブ」の全小学校敷地内への設置を完了しました。各児童支援員様のご努力により、好評を得ながら運営を続けております。

●東北初の不登校特例校を設置 富谷中学校西成田教室(令和4年4月)

文部科学省から指定を受けて不登校特例校「富谷市立富谷中学校西成田教室」を開設しました。教職員の日々の努力と工夫のもと、生徒一人ひとりに寄り添った柔軟な運営に努めています。



●GIGAスクール構想 富谷ICT教育環境の整備

高速大容量ネットワークの整備と児童生徒1人1台端末配備を県内で最も早く導入しました(令和2年10月)。

ゼロ・カーボンへの取組

●2050年 ゼロカーボン戦略策定 (令和3年度)

2050年までに地球温暖化対策に向けた二酸化炭素の排出量を「実質ゼロ」にすることを旨とし、令和3年2月、「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。そして令和4年、具体的な指標や再エネ導入目標、必要な施策などを取り入れた「ゼロカーボン・13の戦略」を策定しました。



▲令和4年7月には東北で初めて「世界気候エネルギー首長誓約」に署名しました

観光・地域振興、市民参加・協働関連施策

●富谷宿観光交流ステーションとみやど(令和3年5月開宿)

1年1ヶ月で 来場者20万人を突破しました!

オープン以来、数多くのイベントや、地域資源を活用した新たな特産品の開発など、しんまち地区のにぎわい創出と交流人口の拡大に貢献しています。令和4年6月25日に来場者20万人を達成(当初目標の約2倍)。



来場20万人目のご家族に記念品を贈呈▶

●とみやわくわく子どもミーティング(令和元年7月～)

「子どもにやさしいまちづくり」の一環で、「世界子どもの日」の11月20日に合わせて「とみやわくわく子どもミーティング」を開催しています。小学生の皆さんから、まちづくりに関するアイデアに富んだアイデア・意見をいただいています。

●しんまち活性化事業(宮城大学連携)

地域資源を生かしたエリア・リノベーション事業として高い評価を受け、令和4年度環境活動賞(日本環境共生学会)を受賞しました。

●「スイーツのまちとみや」関連イベント

恒例の「とみやブルーベリースーツフェア(毎年7月開催)」に加えて、「秋のとみやスイーツフェア(毎年10月開催)」を令和2年から開催しています。



2022年10月の「秋のスイーツフェア」に出品された地元食材のスイーツ▶

農業関連施策

●令和4年7月の大雨による被害の復旧

被害を被った市内50か所の農地や水路等施設に対し、速やかに復旧工事に着手しました。

●米価下落、燃料費・農業資材高騰への対策(令和4年度)

昨年度に引き続き、米価下落に対する支援を行い、併せて物価高騰に対する本市独自の支援を実施しています。

●とみややはちみつプロジェクト推進事業

市役所屋上で養蜂を開始してから7年目を向かえました。糖度が高い富谷産はちみつは、とみやスイーツや秋のスイーツフェアでのスイーツの原料として活かしています。

健全な行財政経営を實踐

- プライマリーバランスは5年連続で黒字達成(平成29年～令和3年)。
- 基金残高も4年連続で最高水準を更新(平成30年～令和3年)。
- 一般会計市債残高は4年連続で減少(平成30年～令和3年)。

～100年間、ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～

現在の人口減少社会において、富谷市は全国でも数少ない(東北では唯一)「100年間、人が増え続けるまち」の可能性を持つまちです。富谷市が「住みたくなるまち、日本一」になることも、それが実現するための一つの要素。「富谷市総合計画」に加え、「富谷市地方創生総合戦略」、「富谷市人口ビジョン」、これらの計画に掲げた一つひとつの施策を確実に成し遂げながら、この壮大な目標を達成できるよう次世代へつないでまいります(若生ひろとし)。